はるかな尾瀬

—目　次—

02　特集
　安全登山のススメ
04　リレーエッセイ
　湿原の素顔を探る～微地形と植生
06　現地情報
08　連載コラム
　①美味しいお弁当を持って、尾瀬に行こう！
　②猟師、画家、ガイド
10　TOPIX
11　エッセイ尾瀬好日
　①私の尾瀬ボランティア
　②特別版
13　尾瀬ボランティア情報
14　尾瀬保護財団からのお知らせ

2009.09 vol.10
（財）尾瀬保護財団

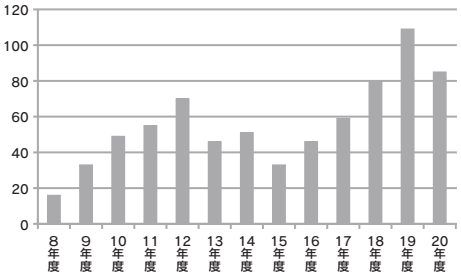
キンコウカ咲くアヤメ平

尾瀬で発生する傷病事故は、当財団が確認しているだけでシーズン平均で約60件（左図のとおり）と、かなり多く発生しています。特に木道上での転倒や、体力不足による歩行困難は全体の傷病事故の約8割と多く、こうした事故の背景には尾瀬が山岳地であるという認識の薄さや、中高年登山者を中心とした尾瀬の利用状況があると思われます。

しかしこういった背景による事故は防げるものが大半であり、初歩的な登山技術や装備、また余裕をもった登山計画といった、特別な知識や技術を要さないもので対応することができます。

今号では「安全登山のススメ」と題して、尾瀬を安全に楽しく使っていただくための情報をお届けします。尾瀬には何度も訪れているという登山者の方々も、『低い山だから、日帰りだから、今まで何もなかったから、大勢で行くから、ツアーだから、自分は大丈夫、自分に限って』と安易に考えないで是非ご一読ください。

表　尾瀬での傷病事故発生件数（財団調べ）



もう一度、自分の装備を見直してみよう

最近では登山用品も高機能で、購入しやすい金額のものが多くなってきました。尾瀬歩きに適した装備を用意することは、楽しく・安全に尾瀬を歩くためにも必需品です。

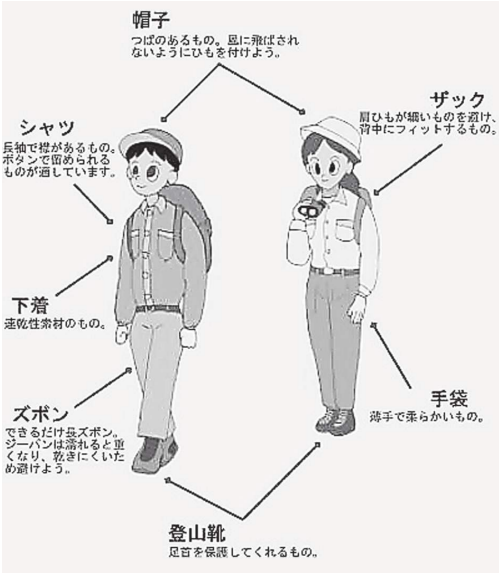
『靴』

主に尾瀬の木道を歩く場合は基本的に軽く、靴底がやや柔らかく、溝が深いものが適しています。濡れた木道は滑りやすく、靴底の硬い登山靴ではグリップが効かないからです。しかし、至仏山や燧ケ岳といった山道を歩く場合は、足場が不安定な所や岩場、蹴り込みが必要な残雪歩きなどがあるため、登山靴が適しています。

『服装・雨具』

登山中には大量の汗をかくため、体が冷えて体力を消耗します。このため登山に適した衣類には汗を吸収・発散しやすい化繊やウールなどが良いとされています。

また、尾瀬は雨が多く、雨の中で快適に余裕をもった行動をするには雨具が必須です。特に上下で分かれたセパレート型で、高価ですが防水透湿素材のものを選びましょう。濡れたままの服で行動すると思わぬ体力の低下を招きます。寒い場合には雨具などで保温することも出来ますが、替え下着をビニール袋に入れて用意し、着替えるようにしましょう。大切なことは必要最低量をコンパクトにまとめ、体温調節をまめにすることです。



▲尾瀬に適した装備（一例）

尾瀬を安全に歩くコツ

『小さな歩幅とマイペース』

歩幅を小さく、重心を静かに移動させながら歩くことが、体力を消耗させずに歩くコツです。また、マイペースとは自分の体力と、行程を見合わせて、歩ききれるペースを守ることです。「少し自分にとっては早いペースだな」と感じたら、息切れしない程度にペースを抑えて歩きましょう。グループの場合には最も遅い方に合わせ、バラバラになることの無いよう心がけましょう。

『登山道の下りと木道は要注意』

下りでは傾斜や段差での足の運び方で負担が違うため、技術の差が大きくなります。次に足を置く場所の確認もせずに、思い切ってドスンと下りることは疲労を早めるばかりか、転倒、落石など次の危険を生む場合があります。

こうした事故防止のためにも、普段から使っているメガネやコンタクトレンズで視力を補い、次の場所の状況を確認しながら歩きましょう。また荷物の軽量化を図り、足の負担を軽くすることも大事な技

『持ち物は必要最低限で』

登山に便利な小物はたくさんありますが、基本はシンプル・イズ・ベストです。あれもこれも必要と背負いすぎて、かえって荷物が重くなりバテないように注意しましょう。

術のひとつです。

木道では設置された横木を滑り止めにしたり、落差の大きな所では横向きや後ろ向きに下るなど、小さな積み重ねが足の負担を軽くします。

『登山届を書いて入山しよう』

登山する際には、同行しない家族や友達に、いつ、どのルートでどこに行くといった計画を伝えましょう。登山計画をまとめたり、話したりすることで行程に無理が無いかを客観的に見ることもできます。

また、登山届を提出するポストがいくつかの登山口にありますが、群馬県側では片品村役場、福島県側では南会津警察署が提出先となっています（インターネット経由で提出する事もできます）。

事故が起きてしまったら

『セルフレスキュー&ファーストエイド』

尾瀬での事故は野外での事故が大半です。「自分の身の安全は、自分で守る」ためにも、また、早い処置をするためにも、本人や仲間がまず事故に対応する必要があります。

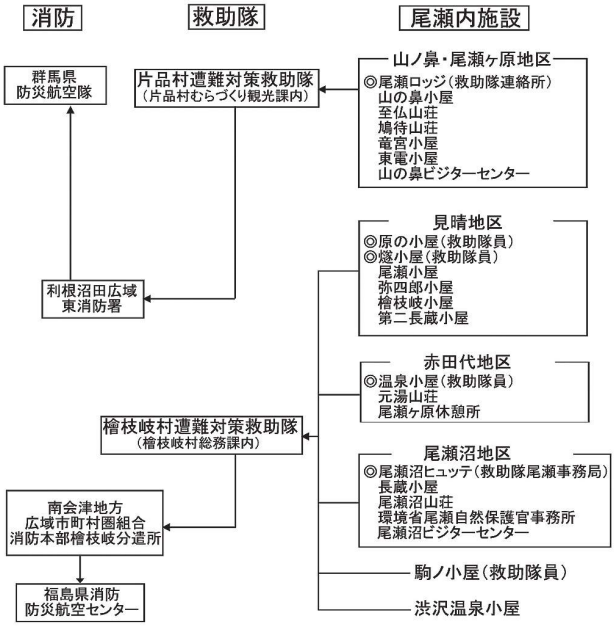
そのためにもザックの中には必ずファーストエイドキットを用意し、講習会に参加したり本を読むなどして、取扱いに慣れておくことが望まれます。

（上）日頃からの練習がファーストエイドには重要
（下）ファーストエイドキットは登山の必需品

『早期通報』

大きな事故等で自力下山が困難な場合には、緊急を要するため、最寄りの施設（ビジターセンター、山小屋、休憩所など）に助けを求めましょう。

尾瀬では地区ごとに救助体制が作られており、通報を受けた時点で救助システムが動き出します（詳しくは左図参照）。



◎：各地区で現在、救助時に事務局機能を持っている施設

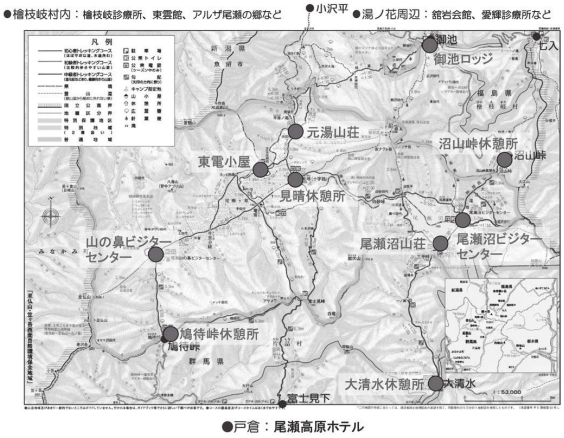
『救助体制と費用』

救助システムが動き出すと、傷病者の大半はヘリコプターや担架（と救急車）によって病院に搬送されます。しかし尾瀬内での救助体制は図で示されたとおり、民間組織で構成されており、多くの場合は本業を中断して救助を行います。このためこうした救助活動には費用が発生することを御理解願います。

『早期CPR、早期AED』

事故の中には突然意識を失って倒れてしまうケースもあります。こうした場合には早期通報を行い、救助隊が駆けつけるまでの間、その場に居合わせた人でCPR（心肺蘇生）を行うかどうかが救命率を左右します。また付近の施設にAED（自動体外式除細動器）がある場合にはそれを取りに行って使用することも考えなくてはいけません。CPRやAEDについても講習会に参加し、取扱いについて訓練しておくことが望まれます。

楽しく・充実した尾瀬歩きのためにも、時間、コース、体力、気持ちに余裕を持って尾瀬に入山しましょう。



AEDが設置されている施設（2009年9月19日現在）

（上）担架搬送には多人数が必要となる
（下）ヘリコプターによる傷病対応

リレーエッセイ

湿原の素顔を探る～微地形と植生

竹原　明秀

第三次尾瀬総合学術調査が終了し、あっという間に10年が過ぎた。10年といえば湿原の歴史において一瞬のことであるが、私の湿原研究にとって充実した時間であった。特に総合学術調査で得た湿原の微地形や湿原植生に関する研究成果は、その後に行ったシベリアなどでの学術調査の礎となった。これらの原点となったのは、阪口豊先生が書かれた『泥炭地の地学』であり、『尾瀬ヶ原の自然史』に書かれている「尾瀬ヶ原は世界的にも貴重な自然である」ということを確かめたいという気持ちからであった。

総合学術調査では、下田代と中田代において微地形の発達と植物群落の関係を調査した。特に下田代では樫村利道先生が中心となってバンク・ホローシステムの構造を探ることとなった。バンク・ホローシステム（写真1）とは、等高線方向に発達する小凸地（バンク）と小凹地（ホロー）が連続して分布する微地形で、千枚田のような景観をなし、指紋状パターン（ケルミーシュレンケ複合体）と阪口先生は呼んでいる。このような微地形は日本海側の多雪地に分布する山地湿原に見られ、尾瀬ヶ原からは34ヵ所が報告されている。

写真１　北下田代のバンク・ホローシステム

調査した北下田代は、ヨッピ川に向かって南東から北西に緩やかに傾斜し、中央部がやや高まっているドーム状となっている。この高まりはボーリング調査（写真2）の結果、基盤の地形を反映したもので、泥炭層がレンズ状に発達したものでないことが分かった。つまり泥炭層は湿原周縁部を除き、ほぼ同じ厚さ（ここでは4.5ｍ）からなり、基盤の上に泥炭毛布（ブランケット）を敷いた構造となっている。その表面に比高差20～30㎝（最大60㎝）からなる凸凹、バンク・ホローシステムが発達している。そこで見られる植生は、表面地形の複雑さにくらべ、意外と単純な種組成や群落構造となっている。バンクではヌマガヤ・キンコウカが多く、平坦面にキダチミズゴケ、池塘縁（写真3）にイボミズゴケがそれぞれ密生する。ホローでは裸地（写真4）にミカヅキグサやナガバノモウセンゴケなどが見られ、浅い水中にはウツクシミズゴケやハリミズゴケが生育することもある。なお、ボーリングで得られた泥炭を分析した結果、キダチミズゴケはここ１０００年程前から出現したもので、比較的新しい。それに対して湿原が形成し始めた９０００年ほど前はヨシ群落で、その後、ツルコケモモ群落、スゲ群落、ミズゴケ群落という順に変遷したことも分かってきた。

写真2　尾瀬ヶ原でのボーリング調査（ヒラー式ボーラーによる泥炭採取）

写真3　池塘縁に発達するイボミズゴケ群落

写真4　裸地が目立つ小凹地に生育するナガバノモウセンゴケ

バンク・ホローシステムを調査するに従い、尾瀬ヶ原は阪口先生が予測したように、泥炭ドームからなる高層湿原・泥炭地ではなく、河川がつくる平野の後背湿地を起点に、斜面を覆うように発達したブランケット湿原であることが明らかになった。特に調査した下田代は大規模な傾斜湿原で、植生的には東北地方の多雪地に発達する山地湿原（例えば燧ヶ岳北面の湿原群、会津駒ヶ岳）ときわめてよく似る。ヌマガヤをはじめ、キンコウカ、イワショウブ、イワカガミ、あるいはヤチカワズスゲ、チングルマなど、雪田に出現する植物と共通する。一方、出現するミズゴケはキダチミズゴケで、東北地方で普通に見られるワタミズゴケとは異なる。さらに尾瀬ヶ原では20種を超すミズゴケが報告されているが、ほとんどの山地湿原では数種と少ない。このように調査を進めていくうちに、尾瀬ヶ原はわが国の湿原の中で、似て非なる存在と思えた。

総合学術調査後、ロシアでの湿原調査に参加する機会を得、いくつもの湿原を訪れた。わが国では湿原は残された貴重な存在であるが、シベリアではまだまだ普通の存在で、ツルコケモモやクロマメノキの果実採集以外、人が入り込む様子はなかった。そこではボーリング調査や植生調査を行ったが、尾瀬ヶ原で見た微地形や湿原植生がないかと探した。結果、バイカル湖南東岸に一ヵ所、やっとの思いで発見したが、バンク・ホローシステムはほとんど発達せず、多数の池塘からなっていた（写真5）。出現する植物は、ヨーロッパと共通するものが多く、尾瀬ヶ原よりも湿原植物は種数が多いようであった。大陸から尾瀬ヶ原を眺望すると、大陸の外れにある小さな島の箱庭的存在としか見えなかった。しかし、そのことが「尾瀬ヶ原は世界的にも貴重な自然である」ことを主張しているようにも思えた。

写真5　バイカル湖南東岸近くに発達する湿原（シベリア鉄道が中央部を貫通する）

筆者紹介

竹原　明秀（たけはら　あきひで）

岩手大学人文社会科学部教授

専門は植生科学、環境保全学、景観生態学

「東北地方の湿原に発達する植物群落の構造とその保全に関する研究」で第12回尾瀬賞を受賞。

現地情報

原をわたる風だより

～山の鼻ビジターセンターより～

仲間が一人増えました。

7月中旬から職員1名が増員となりました。

山の鼻ビジターセンター職員
（後列一番左が布施職員）

新規職員の想いや意気込みなどをご紹介いたします。

私は自然の中に身を委ねていることが、理由もなく気に入っています。そんな中、登山道は荒れ道標は朽ちて倒れた山も多く、憂慮しています。

幸いビジターセンターの職員となり、現状の歩道管理や環境作りを学ぶ機会に恵まれました。

尾瀬は木道が多く、滑ったり踏み外したりの転倒事故が多発しています。長年の登山経験を活かし、登山者の視点から安全に楽しく歩ける歩道（木道）補修や管理を心掛けたいと思います。

（布施　秀雄）

今年度前半の花模様

雪解けが早かったためでしょうか、全体的に例年よりも1週間前後、植物の開花が早かったようです。また、霜があまり降りなかったせいか、開花した範囲が広く密度が高かったようです。

特に密度が高かったのはトキソウ、サギスゲ、カキツバタなどです。ニッコウキスゲは昨年よりも開花している範囲が広く、見応えがありました。ワタスゲは昨年よりも少なかったのですが、果穂の時期がニッコウキスゲと重なり、一緒に見ることができました。

特筆すべきはレンゲツツジとコバイケイソウの群落です。コバイケイソウの花は数年に一度、一斉に開花します。周期は3年または7年などと言われています。尾瀬のコバイケイソウの前回の当たり年は平成17年。4年振り前回以上の大群落だったようです。次の一斉開花は何年後でしょうか？

コバイケイソウ

調べてみました！

7月25日、研究見本園奥のベンチと中通り分岐（至仏山側）から中通りに木道3基分（約12メートル）の範囲にあるニッコウキスゲの花数調査をしました。

合計株数122本。花数の合計464個。

最大花数は7。最小花数は1。1本あたりの平均花数は3・8という結果になりました。

過去に14個ほどの花がついた株を見たことがあります。今年皆さんが見た一株あたりの花数は最高いくつでしたか？

次号ではどれだけ結実したかを報告する予定です。

（秋山　恵美子・渡辺　純平）

クイズ！この実なんの実？

春～初夏にかけて咲いた花が実を結び始めています。どの花がどんな実を付けるのでしょう？花の写真（①～④）と実の写真（A～D）を組み合わせてみてください。（答えはこのページの最後にあります）

このお花からこんな実が!?と思う程、様々なかたちの実があります。その姿からは、子孫を残すための戦略が垣間見えます。ご紹介したのはほんの一部。皆さんもぜひ探しに来てくださいね！

●答え●①＝B（タテヤマリンドウ）、②＝D（ミズバショウ）、③＝A（サンカヨウ）、④＝C（ミツガシワ）

（内田　真樹子）

現地情報

おこじょだより

～尾瀬沼ビジターセンターより～

～沼ビジスタッフの㊙生活レポート～

時々「毎日尾瀬まで出勤するのは大変でしょう？」と来館された方に質問されることがあります。でも実は私達、ビジターセンターの2階で共同生活をしているんです！

今回は、そんな私達の知られざる尾瀬での生活をご紹介します。

＊お食事＊

完全自炊で当番制で作っています。

食材は5月の初入山時に大量に買い込み、他の荷物と一緒にヘリで荷上げしました。でも皆よく食べるので、すぐに食材も底を尽いてしまい、今では誰かが下山をする毎に買い出しに行き、沼山峠から背負って運んで来ています。

食材確保は大変ですが、毎日皆で仲良く食卓を囲んでいます。

＊お洗濯＊

尾瀬沼は一年中涼しく、お天気も変わりやすいので、外に干しても なかなか乾きません。ビジターセンターには「乾燥室」があり、除湿器を置いて乾かしています。

巡回の日や雨の日には乾燥室が洗濯物ラッシュになることも度々です。

＊お誕生日会＊

スタッフの誕生日にはケーキを焼いてお祝いします。皆で歌を歌って、写真を撮って。本当の家族の様です。

＊毎日がジャンケン勝負＊

私達スタッフは、ジャンケンをするのが日課です。なぜなら、「お昼休憩をとる順番」と、毎夕行っている、トイレ掃除当番の「第一公衆トイレと第二公衆トイレ、どちらの掃除をするか」を決めなくてはならないからです。ここでは、ジャンケンに弱いと少しだけ損してしまいます。

＊何よりも大事(?)な連絡手段＊

尾瀬内には携帯電話の電波塔や電話回線というものは存在しません。そのため、携帯電話はおろか公衆電話も使えません。唯一、ビジターセンター窓口横に置いてある電話は「衛星公衆電話」で、4秒10円もかかってしまいます。

そこで、普段私達が使用しているのは「無線機」です。巡回時は必ず持ち歩き、傷病者対応の際には各山小屋さんとも連絡を取り合います。特殊な環境下ならではの必需品です。

突撃？隣のVCスタッフ

尾瀬での生活も、そろそろ前半戦が終了。そんなスタッフ達に今の心境を聞いてみました。

質問①「今、一番恋しいものは？」質問②「入山前後で自分自身変化した事は？」質問③「尾瀬での生活を一言で表すなら？」質問④「後半戦に向けての意気込み・目標」

Nさん ①温泉と地方ニュースTV（BSではあまりやっていない）②スライドショーや観察会用にジョークを考えるようになった③一から十まで全て手作業④まだまだやり残したことが一杯！

Kさん ①何もしないボーッとする時間②山登りは苦手なのに「あんな花が咲いてたよ」とか聞くと「登らなくては！」と体が動くようになった事③時間が足りない！④食料の確保！（これが一番！）

Sさん ①いざ聞かれると特にない②花を覚えた（他にもあるけど言えません）③陸の孤島④○○に行くぞー！（行き先はヒミツ☆）

Wさん ①秘密！②早寝早起きになった？③贅沢！④燧登り自己記録へ。その都度挑戦！！

Hさん ①本屋さんでの立ち読み②血圧が下がった。掃除と料理をするようになった③いつのまにか山男になったみたいだ④秋の風景を見る。これまで未体験のシーズンを十分に体験したい

Iさん ①地上波のTVお笑い番組。（毎週帰ってますが）マイハニー❤②ビール腹がレベルUP。料理の回数が大幅UP③もう一つの家族④多くの人と自然の中にある驚きや発見を分かち合いたい

Oさん ①ジャンクフード（マックやミスドが恋しい）②ふくらはぎにムキッと筋肉。毎日写真を撮るようになった③マイナスイオン炸裂！④尾瀬国立公園全エリア制覇！（どの風景も自分の目と足で確かめてみたい）

■連載コラム　『美味しいお弁当を持って、尾瀬に行こう！』

尾瀬から学ぶスローライフ　　取材協力＝湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会（新潟県魚沼市）

日本一の米どころとして有名な魚沼市では、今年の春に「尾瀬弁当コンテスト」が開催されました。尾瀬を訪れるハイカーにとってお弁当は必需品であり、何よりの楽しみ。今回のコンテストでは、尾瀬の花々に負けないくらい魅力あふれるお弁当が応募されたようです。そこで、コンテストについて、主催者である湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会会長の富永三千敏さん、同食彩部会部会長の上重礼子さん、尾瀬ハイキング部門最優秀賞を獲得した田澤歩さんにお話を伺いました。

魚沼・湯之谷温泉郷の魅力発信

「湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会は、大湯栃尾又温泉、折立芋川温泉、奥只見・銀山地区の3地区が協力しながら地域の活性化を図ることを目的に、平成18年に結成された委員会で、地元観光関係者や県・市などで構成されています。活性化委員会食彩部会ではコシヒカリをはじめとした地元の食のことについて見直し、PRしていくことで地域振興を図ろうと活動していて、その一環として、食の面から魚沼や湯之谷温泉郷のことを多くの方々に知ってもらうために尾瀬弁当コンテストを開催しました」とコンテストに対する強い思いを話す富永さん。続いてコンテストの概要を伺いました。

「尾瀬弁当コンテストは、尾瀬などの山に持っていくことができる弁当をテーマにした『尾瀬ハイキング部門』と魚沼市内の観光のお供となり魚沼の魅力を引き立てる弁当をテーマにした『一般部門』が設けられ、どちらの部門もできるだけ魚沼の食材や伝統料理を使用することになっています。応募は13点あり、どれも甲乙付け難いお弁当ばかりでしたが、各部門から最優秀賞と優秀賞が1点ずつ選ばれました」

▶コンテストに入賞したお弁当

地域の味わいを感じて、午後もしっかり歩こう！

コンテストに応募したきっかけを田澤さんに伺うと、

「応募したお弁当は、コンテストの前から販売していたお弁当をベースにしたものです。このコンテストをきっかけに、地元の方々に自分が作ったお弁当を評価してもらいたくて応募しました」

気になるお弁当の内容を伺うと、「魚沼産コシヒカリとネマガリダケの山菜ごはん、奥只見名物の山ウドのキンピラ、海から離れた魚沼地域で重要な乾物として食される身欠きにしんの煮物、サクラマスのフライ。いずれも魚沼で採れる食材や伝統料理を用いることを大切にしました。〝地域の顔がみえるお弁当〟を作りたかったからです。特徴がないお弁当が増える中で、このお弁当には普段感じることができない地域の味わいが詰まっているので、是非多くの皆さんに食べてほしいですね」と話す田澤さん。

○田澤さんのお弁当は10個より受付、1週間前までの予約販売を行っています。お茶付きで1個1，000円。

〈田澤さんのお弁当に関するお問い合わせ先〉
奥只見観光（株）
025-795-2750

最後に、上重部会長にコンテストの今後について伺いました。

「尾瀬弁当コンテストの作品を通じて、魚沼の味を多くの方々に味わっていただきたいのですが、生産や販売において課題があり、商品化は今後の検討課題です。しかし、今後も尾瀬弁当コンテストを開催しながら、魚沼や湯之谷温泉郷の魅力を発信していきたいです」

▲是非尾瀬に持って行きたい多菜なお弁当（田澤さんのお弁当）【尾瀬ハイキング部門最優秀賞】

▲左から田澤さん、富永会長、上重部会長

■連載コラム　『猟師、画家、ガイド』

続・山小屋主が語る尾瀬の秘話　取材協力＝桧枝岐小屋（福島県南会津郡檜枝岐村）

尾瀬ヶ原の東端に位置する見晴地区では発電機の低音が聞え、その音はどこか懐かしく、訪れる人を暖かく包み込むようです。そんな見晴で、訪れる登山者を暖かく迎え続けてきた桧枝岐小屋の「ひげくま」さんこと萩原英雄さんに、お話を伺いました。

祖父は猟師、父は画家

「桧枝岐小屋は昭和20年代後半に、祖父岩雄が建てました。見晴に小屋を建てたのは、見晴には清水が湧いていて、生活しやすかったからだと思います。祖父は、夏は尾瀬で魚釣りや猟をし、冬は戸倉で曲輪を作って生活していました。中でもイワナ釣りが得意で、名人と言われていました。その頃は釣った魚を山小屋の食事で出したり、麓の旅館に卸したりしていました」と、桧枝岐小屋に併設された喫茶「ひげくま」で萩原さんは話を始めてくれました。

▲煙管を吹かす岩雄さん

「昭和30年くらいになると、父八一（いち）が小屋をきりもりするようになりました。父は絵を描くことが得意で、小屋主として見つめてきた尾瀬を、キャンバスに描き残してきました。毎年春と秋、画家の三宅策郎先生が小屋に来ていて、先生から絵を習っていました。父は恥ずかしいという気持ちからか、絵にサインを入れることはなかったのですが、晩年の頃になると、三宅先生からも腕を認められて、サインを入れたほうがよいと言われるほどでした」と、山小屋主と画家という二つの顔を持っていた八一さんの話をしてくれました。

▶桧枝岐小屋館内に展示されている八一さんが描いた尾瀬の絵

山小屋主になった頃

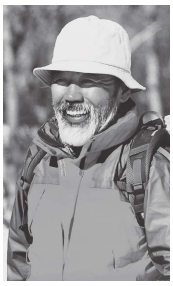
萩原さんと尾瀬の関わりについて伺うと、

「私は、幼いころから尾瀬、そして山小屋と関わってきました。中学生の頃には、入山者が多くなりはじめた鳩待峠から、ボッカとして卵やビールなどの物資を運んだり、山小屋でランプのホヤ掃除や油差しなどの手伝いをしていました。その後、いったん就職して山小屋に戻ってきたのが22歳の頃でした。私は長男だったから、いつかは山小屋に入るという気持ちは持っていましたが、はじめのうちは山小屋の仕事がわからなくて苦労しました。特に、ボイラーや発電機の故障は、今では自分で直すことができるような簡単な修理でも、故障の度に麓から業者を呼んでいましたので、直すのに数日かかってしまうこともありました。発電機といえば、当時の発電機は、毎朝手で稼働機を回して動かしていましたが、その回すときに鳴る独特な音がとてもいい音で印象的でしたね」

山小屋主とガイド

「私は、山小屋主として大切にしていることがあります。それは、山小屋に来るお客さんを『いらっしゃい』と迎え、『ありがとう』と見送ることです。こういったことまで従業員任せにするのは悲しいことだと思っています。また、尾瀬に来るお客さんを歓迎したいという気持ちからガイドをやっています。ガイドをする山小屋主は尾瀬の中でも少ないのではないでしょうか。ガイド中に心がけているのは、安全とすべての方への気配りを忘れないことです。また、目の前にある尾瀬の解説だけでなく、尾瀬の〝次の季節〟の話をするようにしています。それは、四季折々の表情を持つ尾瀬を知ってもらい、違う季節の尾瀬にまた来てもらいたいからです。尾瀬を歩いていて、以前にガイドをしたお客さんから声をかけてもらうと本当に嬉しいです。そういったふれあいや交流が山小屋で働く私の原動力になっています」

山小屋主としてガイドを行う萩原さんは、尾瀬を訪れる人に、やさしく、そして時には厳しく接しながら、尾瀬の魅力を伝え続けています。



▲尾瀬のガイドをする萩原さん（通称ひげくまさん）

▲喫茶「ひげくま」と併せて暖かく登山者を迎える桧枝岐小屋

桧枝岐小屋

（檜枝岐村字燧ヶ岳1）

■問い合わせ先
090-3405-6460
■宿泊料金
1泊2食　8,500円
■営業期間（例年）
4月下旬～10月下旬

尾瀬サミット2009を開催しました

平成21年8月3日（月）、当財団の理事・評議員や関係者が尾瀬に一堂に会し、尾瀬に関わる課題などを話し合う「尾瀬サミット2009」を開催しました。今回の尾瀬サミットは、尾瀬で唯一新潟県域にある「東電小屋」（魚沼市）での開催でした。

サミットの冒頭で大澤理事長（群馬県知事）から「尾瀬ビジョンのうち、尾瀬の横断的な課題であり、総合的な取り組みが必要な事項について意見交換を図りたい。尾瀬は、貴重な自然と利用のバランスが守られている国内でも有数の先進地域であり、関係者の連携を密にし、財団もその役割を担っていきたい」と挨拶がありました。続いて、副理事長の泉田新潟県知事、佐藤福島県知事、清水東京電力㈱代表取締役社長、来賓の鈴木環境省自然環境局長からそれぞれの取組みをまじえて挨拶がありました。

次に環境省からは今年の尾瀬の利用状況についての説明があり、今年6月までの尾瀬国立公園の利用者数は昨年度より25％程減少していることが報告されました。また、尾瀬国立公園内におけるニホンジカの捕獲状況などが報告されました。続いて当財団より、今年度の主な事業として、至仏山の登山道のうち荒廃が著しい区間において環境調査を実施することや、昨年度の尾瀬国立公園誕生記念国際シンポジウムでの提案を受け、英語版の財団ホームページを作成することなどを説明しました。また、尾瀬ビジョンの現在の取組み状況などを報告しました。

その後「尾瀬ビジョンの取り組みについて」をテーマに行われた意見交換では、利用者が少ない登山口の利活用方法、財団ホームページを含む尾瀬に関する情報発信の強化、山小屋宿泊者の増加対策についてなど活発に議論され、それぞれの対策を今後検討していくことになりました。

▲サミットで挨拶をする大澤理事長
（写真提供：今井隆一氏）

第12回尾瀬賞授賞式・記念講演を行いました

平成21年6月16日（火）、東京の砂防会館で第12回尾瀬賞授賞式が行われました。大澤理事長から、受賞者の竹原明秀氏（岩手大学人文社会科学部教授）に賞状と賞金の100万円を贈呈し、来賓の環境省、文化庁、日本生態学会の方々から祝辞がありました。授賞式に続き、受賞研究「東北地方の湿原に発達する植物群落の構造とその保全に関する研究」について、記念講演が行われ、研究の背景、内容、今後の課題などについて映像を交えて説明されました。（本誌にエッセイを寄稿して頂きました）

▶祝辞に応えて挨拶をする竹原教授（上）
受賞研究を発表した記念講演（下）

エッセイ
尾瀬好日

「私の尾瀬ボランティア」

尾瀬ボランティア
中島　典則（No.827）

はじめて尾瀬のボランティア活動に参加したのは10年ほど前の東電のブナ植林ボランティアだった。その頃から温暖化に代表される地球環境問題への関心が高まり、地球のために何かできないか、まずは身近なところから何か始めてみようと思うようになった。ならば30年来時間を見つけては訪れてきた尾瀬で、と思い、見つけたのが東電のブナ植林ボランティアだった。

その後、金曜日の宿泊コースの抽選に当たり、植林作業終了後、その日の宿泊地であった至仏山荘まで移動する間、尾瀬林業の方がガイドを務めてくれて鳩待山荘から山ノ鼻まで、花や木について興味深い説明をしてくれた。それまではただ先を急ぐだけだったコースが、周囲の植物等を観察することでとても楽しい、あっという間の3・3㎞となった。

そんな中で尾瀬保護財団のボランティアのことを知り、いずれは自分もハイカーにいろいろな情報を提供する側になれたらいいなと思い、ボランティア登録をした。そして入山口での啓発活動、植生復元作業、清掃登山、ツアーの実態調査などとお手伝いをさせていただき、一昨年からはビジターセンター（VC）支援ボランティアということで週末の3日間、山の鼻VCのお手伝いをさせていただいている。

初日は必ず大清水から入って尾瀬沼VCに立ち寄り、尾瀬沼から尾瀬ヶ原をゆっくり歩いていろいろ情報収集するようにしている。山の鼻VCでは職員の皆様といっしょに生活しながら食事の準備、トイレ掃除、窓口業務、スライド上映、自然観察会などのお手伝いをさせていただいている。自然保護や環境問題を考える時に、そこで生活している人がいることを忘れてはならないと常々思う。短期間でも尾瀬で生活することは貴重な時間だ。また、お客さんは、はじめて尾瀬に来られる方から花のマニア、野鳥のマニア、時々怪我人だったりと多岐にわたる。知識不足を実感させられることばかりであるが、スライド上映会に参加した方が、翌朝の自然観察会にも来てくださり、「きのうのスライドは、とてもわかりやすかったです。ありがとうございます」などと声をかけられることもあり、お役にたてたかなと幸せな気分になる。これからは、花の紹介をする場合でも周囲の環境や生態など一歩踏み込んだ情報提供ができるように努力したい。とはいえまだまだ知らないことばかり。目標は大きく、いずれは認定ガイドを目指して、これからもいろいろ楽しみながら尾瀬と付き合っていきたい。

▲朝の自然観察会でのガイド

▲山の鼻VCに向かう尾瀬沼にて

エッセイ

尾瀬好日

【特別版】

東京大学名誉教授
前尾瀬保護財団理事　阪口　豊

エッセイ尾瀬好日の特別版としまして、長きにわたり当財団の理事・評議員を務めていただいき、去る3月31日に理事を退任された阪口豊東京大学名誉教授のエッセイを掲載します。なお、阪口先生は、尾瀬賞運営委員長としても尾瀬賞の運営に多大な貢献をされました。

私は学部学生時代の1950年に始まり、1952年まで行われた第1次総合学術調査以来すべての総合学術調査に参加させていただく幸運に恵まれ、尾瀬ヶ原やその微地形の成因などに独自の見解を明らかにしてまいりました。

尾瀬ヶ原のような泥炭湿原は気圏・陸圏・水圏の三つの環境圏を接点に、絶妙なバランスの下に形成された特異な自然です。地表に水分が多すぎれば湖になってしまい、少なすぎれば乾いた陸地になってしまいます。水が地面にひたひたの状態が持続しなければ湿原はできません。このようなクリティカルな状態はわずかな環境条件の変化によっても破られ、湿原の景観は変化してしまいます。人類から見れば景観の劣化が起こることになります。変化の証拠は堆積物である泥炭層や地形などにさまざまな形で記録されます。いわば泥炭湿原は過去の環境変化の記録を保存した古文書館といってもよいでしょう。私は過去数万年間の環境の変化を泥炭湿原から探り出そうと研究を続けてきました。一方、自然保護の立場では、これとは逆の、つまり環境条件の変化が湿原に及ぼす影響を把握しようとする姿勢が前面に出てこなければいけません。

何回も尾瀬ヶ原に通い、国内の泥炭湿原を調べ、国外の泥炭湿原の文献をあさり、ささやかな現地観察を総合しているうちに、尾瀬ヶ原は世界に誇る美しくかつ貴重な自然であると感じるようになりました。尾瀬ヶ原は1万年以上も生き続けてきた長生きの現生泥炭湿原です。尾瀬ヶ原は世界的なといっても過言ではないかけがえのない自然です。

しかし、泥炭湿原は人手を加えることなく自然の営みにゆだねておくとやがて湿原ではなくなってしまいます。その変化の過程は私たち人類の一生のうちでも認識できるくらい早く進行します。湿原はやがて森林に変わってしまうでしょう。地球温暖化は日本あたりでは降水量の増加を引き起こすといわれています。降水量が今よりも増えると尾瀬ヶ原はどうなるのでしょうか？中田代と下田代の湿原の周辺にはリュレと呼ばれる峡谷のミニチュアが樹枝状に湿原の中央部に向かって伸びています。この谷は湿原面の余分な水分のはけ口です。この谷が深く切れ込むと湿原の地下水位は下がり泥炭層が乾燥し収縮します。やがて収縮した部分と、その影響を受けていない隣接部分との境界に亀裂が入り地すべりが発生するかもしれません。一方リュレのない中央部では温暖気候のために急速に堆積したルーズな泥炭層が過剰な水を吸収して泥炭層崩壊を引き起こし湿原は破壊されるかもしれません。この現象はヨーロッパや赤道地方の泥炭湿原で起こっています。また尾瀬ヶ原を流れる河川の水量が増し洪水が起こると氾濫水によって湿原の縁が侵食され湿原の崩壊を引き起こすかもしれません。このような異変が起こらなければしばらくの間池塘の予備軍であるシュレンケから続々と池塘が誕生し尾瀬ヶ原はもっと魅力ある景観に変貌する可能性があります。

目下のところ湿原の自然保護の第一の目的は人類の好みにあった景観を維持させることであると理解されますが、そうだとするとそのような行為は自然の営み・生態系の秩序を無視した人類のエゴであって、聞こえはよいが生態系の崩壊に手を貸すものといわざるをえません。自然保護について人類は早晩このジレンマに突き当たらざるをえなくなるのではないでしょうか。でも尾瀬ヶ原の美しい今

の景観を維持させ子孫に伝えたいと思わないものはいないでしょう。どのような行動をとるのがよいのか、自然保護のあるべき姿について国民のコンセンサスを得ておく必要があるでしょう。泥炭湿原の保護を憲法で保障している世界で唯一の国スイスの憲法第78条「自然と郷土保護」の条文の第5項は「格別の美しさをもちスイス全土から見て価値のある泥炭湿原及び泥炭湿原景観は保護される」と謳っています。スイス国民はどのような保護対策を行うのか興味があります。大局的には自然の成り行きに逆らわず生態系の枠組みをできるだけ損なわないようにして景観劣化の歩みをゆっくりとさせるのが一つの行き方ではないでしょうか。

　そのために必要な基礎的データを集めること、例えば要所で定点観測を行い水分、植生、地形などの記録を集積すること、またできれば定期的な空中写真の撮影を行うことが望ましいと思います。そして何よりも重要なのは広い視野を持った多様な研究者の育成です。尾瀬賞が泥炭湿原の未来に対し有益な手立てを提供してくれる有能な研究者の発掘・奨励にますます大きな役割を果たしてくれることを願ってやみません。

このエッセイは今年3月に開催された当財団第30回理事会での阪口氏の理事退任のご挨拶をもとにしたものです。

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●活動予定

今シーズンも残り少なくなってきました。来シーズンも美しい尾瀬を見せてくれるよう、ありがとう尾瀬清掃を実施します。皆さんのご参加をお待ちしています。

○ありがとう尾瀬清掃

日程・コース

10月17日（土）

尾瀬ヶ原コース、尾瀬沼コース

各コースの概要

尾瀬ヶ原コース

日時／10月17日（土）8時30分～14時30分

コース／山の鼻VC→牛首分岐→ヨッピ吊橋→東電分岐→見晴→竜宮→牛首分岐→山の鼻VC

尾瀬沼コース

日時／10月17日（土）9時～12時

コース／尾瀬沼VC→浅湖湿原→沼尻→南岸経由三平下→尾瀬沼VC

※大清水方面へ帰る方は三平下で解散可。

○至仏山東面登山道整備作業（柵倒し）

至仏山の貴重な植物を守るため、6月に設置した踏み込み防止用の保護柵とロープを外す作業です。

日時／10月25日（日）8時30分～15時

コース／山の鼻VC→高天ケ原→至仏山頂→小至仏山頂→オヤマ沢田代→鳩待峠

※登山コースで、寒い中での作業となるため、体力に自信のある上級者が対象です。

○第14回尾瀬ボランティア総会（速報）

今年度開催の第14回尾瀬ボランティア総会の日程と会場が決まりました。詳細については改めてお知らせいたします。

開催日：平成22年2月13日㈯

開催場所：埼玉会館7B会議室

※埼玉会館はJR浦和駅（西口）から埼玉県庁方面に徒歩約6分です。

所在地：さいたま市浦和区高砂3-3-4

ボランティア番号316の高橋松英さんから、8月1日（土）に実施した尾瀬巡回清掃・会津駒ヶ岳コースに参加された皆さんに次のとおりご連絡がありましたのでご紹介いたします。

お礼・8月1日の会津駒ヶ岳では、帰途滝沢登山口近くで足を痛め、登山者の皆さん、ボランティアの皆さんにご迷惑をかけ、大変お世話になりました。有難うございました。

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

■個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。（財団への寄付を行った翌年１月１日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。）

福島県、群馬県にお住まいの寄付者　：　個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

■また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種　類	条　件	特　典
特別協賛寄付	３年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを１年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で１年間使用
協　賛　寄　付	３年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を１年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）に御来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

会津信用金庫　定期積金“エコロジー積金「尾瀬」”より100万円を御寄付いただきました。（2009月3月13日）
寄付者からのメッセージ：契約額に応じて寄付を行うエコロジー積金「尾瀬」を発売致しました所、多くのお客様にご賛同を頂き誠にありがとうございました。今回の寄付金が尾瀬の自然環境保護に有効に活用されることを期待しております。会津信用金庫はこれからもお客様と共に自然環境保護と地域社会発展に貢献してまいります。

アサヒビール株式会社群馬支社　平成21年３月下旬から４月下旬にかけて製造されたアサヒスーパードライ350ml缶及び500ml缶の群馬県販売分の１缶につき１円、314万円余りを御寄付いただきました。（2009年6月10日）
寄付者からのメッセージ：アサヒビール株式会社群馬支社は、尾瀬の環境保全活動にお役立ていただくため、本年春にアサヒビールスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト<第１弾>」を実施、売上げの一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。尾瀬の貴重な自然環境を保全・復元する活動や来訪者への啓蒙活動等にお役立ていただけたら幸いです。

株式会社群馬銀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として117万円余りを御寄付いただきました（2009年6月8日）。一昨年、昨年に続き、今回が３回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として345万円余りを御寄付いただきました（2009年6月8日）。一昨年、昨年に続き、今回が３回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

株式会社第四銀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として76万円余りを御寄付いただきました(2009年7月10日)。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

株式会社東邦銀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として120万円余りを御寄付いただきました(2009年6月19日)。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。

新潟証券株式会社　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として29万円余りを御寄付いただきました(2009年7月10日)。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

協賛寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

尾瀬山小屋組合　平成10年より尾瀬山小屋組合加盟の山小屋・休憩所に募金箱を設置し、そこに入れられた募金をシーズン終了後に取りまとめて御寄付いただいております。今回は24万円余りを御寄付いただき、累計額は485万円余となりました。(2008年12月12日)

共和工業株式会社　尾瀬保護財団の活動に賛同いただき、今回を含め3年間、毎年10万円の御寄付の申込みをいただきました。
(新潟県三条市　2008年5月22日)

群馬県ホンダ会　群馬県下ホンダカーズ・ディラー25社からなる群馬県ホンダ会様より、36万円余りの御寄付をいただきました（2008年10月31日)。これは､｢SaveOze｣と名前の付けられたリボンマグネット（マグネット素材のステッカーで車等に貼り付ける）を群馬県下の販売店で1年間販売するにあたって、その売上金の一部を前もって御寄付いただいたものです。

社団法人日本損害保険代理業協会　地球環境保護活動の一環として設立されたグリーン基金より尾瀬の自然保護の支援として平成20年度から5年間、毎年20万円の御寄付をいただくことになりました。(2008年7月28日)

株式会社福島銀行　尾瀬の自然環境保護のため、35万円を御寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期のお利息の3%に相当する金額を御寄付いただいたものです。(2009年5月28日)

その他寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

尾瀬林業株式会社、小野悠、群馬県電力関連産業労働組合総連合、群馬県ビルメンテナンス協同組合、小花光雄、シオン新聞販売株式会社、巻島秀男、名鉄観光サービス株式会社

イベント情報◆◆◆

尾瀬沼ビジターセンター企画展示

■燧ヶ岳展

尾瀬沼ビジターセンターでは、企画展示「燧ヶ岳展」を開催します。登ってよし、眺めてもよし、そんな燧ヶ岳の魅力が満載の展示です。尾瀬沼にお越しの際は、ぜひ、ビジターセンターにお立ち寄りください。

○開催日　平成21年9月1日（火）～10月9日（金）
○時　間　7時～16時
○会　場　尾瀬沼ビジターセンター
○参加費　入場料

「今朝の山ノ鼻」を財団ホームページに開設しました

尾瀬山ノ鼻地区の気温、天気、学校団体の入山状況等を毎日更新し掲載しています。入山前の情報収集にご活用ください！携帯電話でもご覧いただけます。
URL：http://yamavcblog.blog99.fc2.com/

「尾瀬カードをご存知ですか？」

尾瀬カードは信販会社が当財団と提携し、発行されている「クレジットカード」の名称です。

オリエントコーポレーション

セントラルファイナンス

このカードを利用された場合、利用額の0.5%相当額がカード会社から当財団へ寄付され、尾瀬の自然を守るための活動に使われます。
加入ご希望の方は、各クレジット会社あるいは尾瀬保護財団「尾瀬カード」担当までお問い合わせください。

編集後記

先日、財団事務局に「ミズバショウの花はどんな匂い？」というお問い合わせをいただきました。私は、まだ匂いを嗅いだことがなく、他のスタッフに教えてもらいました。是非、来年は匂いを確認したいと思います。それと、匂いという目に見えないものを人に伝える表現力も身につけなくては･･･。(小)

はるかな尾瀬
財団法人尾瀬保護財団機関誌
2009.09　平成21年9月30日発行
発行所：財団法人尾瀬保護財団

〒371-8570　群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL　027-220-4431／FAX　027-220-4421
E-mail　info@oze-fnd.or.jp　ホームページ　http://www.oze-fnd.or.jp

尾瀬の三二観察⑥

―ウメバチソウ―

（花期：８月中旬～９月中旬）

秋、星のように点々と咲く白い花。その５枚の花弁に囲まれて、黄色く小さい粒々がいくつも光っている。「おー蜜がこんなに」と思って触れても、粘らないし取れることもない。これは蜜に見せかけた偽物なのだ。この粒々を支える細い柄は、緑色の手のひら状のところに集まっている。ルーペで見ると、その手のひらに透明な液が盛り上がっている。それが本当の蜜なのだ。花は粒々で昆虫を騙したのではない。我々も食堂のサンプルを見て、誘い込まれるではないか。

（フラワーエコロジスト　田中　肇）

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

年会費	○個人会員	1口	2,000円
	○ユース会員（３月31日現在満22歳以下）	1口	1,500円
	○家族会員（個人会員と同居の家族）	1口	1,500円
	○賛助会員（団体・法人）	1口	10,000円

☆尾瀬内山小屋の宿泊割引の廃止について

長年に渡り、尾瀬山小屋組合様、尾瀬戸倉旅館組合様、尾瀬桧枝岐旅館組合様、民宿組合様のご協力により、ご好評頂いてきました尾瀬および周辺宿泊割引きですが、今年度より尾瀬山小屋組合様加盟の山小屋につきまして宿泊割引きが無くなりました。なお、尾瀬戸倉、檜枝岐村の周辺宿泊につきましては、引き続き割引を行っていただけます。

☆友の会の会員期間の変更について

昨年度までは、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる会員期間で皆様にご加入いただいておりましたが、今年度より加入あるいは更新から１年間の会員期間とし、尾瀬のシーズンをフルに楽しんでいただけるようになりました。一年を通じて加入の受け付けを行っていますので、皆様のご加入を心よりお待ちしています。

☆メールクラブのご案内について

「友の会」会員を対象に、登録をいただいた方に尾瀬のいろいろな情報をメールにてお送りする「めーるクラブ」を行っています。是非、ご利用ください！（登録は財団ホームページから）

○その他、「友の会」の詳細及びお申し込み方法等は財団ホームページをご覧いただくか、財団事務局までお問い合わせください。

本誌は、尾瀬の木道をリサイクルした再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。